



## 2024年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年6月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ストリーム  
コード番号 3071 URL <https://www.stream-jp.com/>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 勝久  
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)齊 向東 (TEL)03(6823)1125  
四半期報告書提出予定日 2023年6月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年1月期第1四半期の連結業績(2023年2月1日~2023年4月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第1四半期	6,793	△17.3	2	△98.3	1	△99.2	△9	—
2023年1月期第1四半期	8,211	9.0	159	△55.7	160	△55.8	119	△60.5

(注) 包括利益 2024年1月期第1四半期 △12百万円 ( —%) 2023年1月期第1四半期 116百万円 ( △61.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年1月期第1四半期	円 銭 △0 35	円 銭 — —
2023年1月期第1四半期	4 39	— —

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年1月期第1四半期	6,722	2,904	42.8
2023年1月期	6,360	2,998	46.6

(参考) 自己資本 2024年1月期第1四半期 2,875百万円 2023年1月期 2,966百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年1月期	— —	0 00	— —	3 00	3 00
2024年1月期	— —				
2024年1月期(予想)		0 00	— —	3 00	3 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年1月期の連結業績予想(2023年2月1日~2024年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,856	8.7	524	36.9	505	37.9	341	56.7	12 53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年1月期1Q	28,525,000株	2023年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	2024年1月期1Q	1,236,500株	2023年1月期	1,236,500株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年1月期1Q	27,288,500株	2023年1月期1Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年2月～2023年4月)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は軽減されつつありますが、長期化する地政学リスクの高まりによるエネルギー資源の高騰、円安の進行に伴う物価上昇が個人消費に与える影響の懸念等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良い商品」「より良い価格」「より良いサービス」をモットーに、新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既成概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ①インターネット通販事業

当第1四半期連結累計期間(2023年2月～2023年4月)における国内の家電小売業界におきましては、エアコン等の季節家電、冷蔵庫や洗濯機等の生活家電が前年に比べてやや低調に推移し、又テレビ、パソコン等も低調であったこと等により、総じて伸び悩む展開となりました。

このような状況の中、当社が出店する「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上高は、ポイント等の効果的な販促施策の展開により、HDD、カメラ用レンズ、電子辞書等を中心に好調に推移いたしました。また、プリンター、ディスプレイ等についてもほぼ前年同四半期並みに堅調に推移しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上高確保に努めてまいります。

WEB接客ツールのチャット機能を導入している「ecカレント」オリジナルサイト、「楽天市場」及び「Yahoo!ショッピング」の外部サイトにおける大型家電の配送設置サービスは、きめ細やかな接客を通してそれぞれのユーザーに合った提案を行うよう努めております。

2023年3月に開催された「au PAY マーケット」の「BEST SHOP AWARD 2022」において、「ecカレント」が、パソコン・PC周辺機器カテゴリ大賞を受賞しました。また、同月に開催された「PayPay モール Best Store Awards 2022」では、当社運営の「イーベスト」が、「スマホ、タブレット、パソコン部門」第3位を受賞しました。

約3,800万人のANAマイレージクラブ会員を有するANAグループが運営する「ANA Mall」に、2023年2月より本格展開している「ecカレント ANA Mall店」において取り扱う商品は、掃除機、冷蔵庫等の生活家電をはじめ、パソコン、プリンター、オーディオ、カメラ等約15万アイテムで、出店以降売上高は堅調に推移いたしました。また、4月には、ドコモの総合通販サイト「dショッピング」に、「ecカレント」を新規出店しました。同店舗が取り扱う商品は「ANA Mall」同様に家電を中心に約10万アイテムで、更なる外部サイトの販路拡大へ繋げてまいります。

当社が運営する家電レンタルサイト「レントコ」では2023年3月より、新生活応援の月額定額レンタルサービスの冷蔵庫や洗濯機等の大型家電を含めたプランの対応エリアを全国(離島地域等一部エリアを除く)に拡大しました。また、今後の国内・海外での旅行需要の高まりを踏まえ、家電とセットでの利用を想定し3月よりスーツケース、4月には、世界100か国以上の国でインターネットが定額料金で安心して利用可能なポケットWi-Fiルーターのレンタルを開始しアイテムの拡充を行いました。さらに同月には、「レントコ」のオープン3周年を迎えて皆様への感謝の気持ちを込め通常商品が全品50%オフ及び期間中にお支払い頂いた総額20%を「ecカレント」で利用できるポイントとしてプレゼントするキャンペーンを実施しブランディングの強化を図りました。

各カテゴリにおける前年同四半期比では家電31.9%減、パソコン15.7%減、周辺機器・デジタルカメラ10.3%増となりました。

売上高に関しましては、食料等生活必需品の価格高騰による消費者の節約志向の影響もあり、前年同四半期比を下回りました。また利益面については、消費者の節約志向に伴う競合他社との価格競争による粗利益の低下により前年同四半期比で減収減益となりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は6,531百万円(前年同四半期比17.7%減)、営業利益122百万円(前年同四半期比57.8%減)となりました。

## インターネット通販事業の売上・受注件数等の推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	受注件数(千件)	棚卸資産回転率 (回転/年換算)
当第1四半期連結累計期間	6,531	122	281	10.3
前第1四半期連結累計期間	7,939	289	358	13.3

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	3,131	942	2,139	318	6,531
前第1四半期連結累計期間	4,597	1,118	1,940	283	7,939

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

## ②ビューティー&amp;ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業においては、新商品として、2023年2月に3種のヒト幹細胞培養液を配合した贅沢な高機能美容クリーム「エクスリユークス ブライトダーマクリーム」、3月には人にやさしく、地球にやさしく、ホタテ貝殻100%の食材用洗浄剤「フレ・シャスC」を発売し、おかげさまで売上高は堅調に推移いたしました。また、同月にはヒト幹細胞培養液配合の頭皮・毛髪に悩みのある女性に向けたヘア&スカルプケアアイテム「エクスリユークス モイスチャー ヘア&スカルプオイル」、4月には機能性関与成分 納豆菌由来「ナットウキナーゼ」を配合した 機能性表示食品「グランセプロ N」を発表しました。

会員ビジネスにおいては、WEB会議アプリケーションによる動画(ライブ含む)配信を活用したオンラインセミナーに加えコロナ禍の状況をみながら3月より東京、大阪、福岡、新潟で対面でのセミナーも徐々に増やしていき、会員とのきめ細やかなコミュニケーションを行っており、売上高は堅調に推移いたしました。

2022年4月に新規出店したエクスワンの直営店舗「エクスリユークス横浜」では、2023年3月に週末期間限定でエクスリユークスシリーズ、インナップシリーズ、サプリメント、飲料類等50%オフキャンペーンを行いました。4月には、オープン1周年記念としてヒト幹細胞培養液配合コスメが当たるハズレ無しのクジ引きキャンペーンを行う等各種販促施策により、エクスワン商品を実際に手にとって実感してもらえるようブランディングの強化を図りました。

また、2023年5月開業のウェルエイジングクリニック南青山と提携を行い、株式会社エクスワンがこれまで培ってきたエイジングケアに関するノウハウを活用して、オンライン診療に係るコンサルティング及びそれに伴う処方薬の配送等のメディカルサービス事業を新たに展開してまいります。

売上高に関しましては、会員向けビジネスは概ね計画通り推移いたしました。卸販売においては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり店舗販売は厳しい状況が続いておりますが、全体として前年同四半期並みとなりました。利益面に関しましては、コスト削減の効果もあり赤字幅は縮小いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は178百万円(前年同四半期比0.0%減)、営業損失28百万円(前年同四半期は43百万円の営業損失)となりました。

## ビューティー&amp;ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	83	43	51	178
前第1四半期連結累計期間	90	41	46	178

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③その他事業（「各種販売支援事業」、「3PL事業」）

「各種販売支援事業」においては、ラオックス・トレーディング株式会社の国内免税店舗等において訪日観光客向け販売や株式会社エクスワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っております。

「3PL事業」においては、当社が運営する「ecカレント」をはじめインターネット通販サイト運営で培ってきたノウハウを基に、販売から物流までワンストップで管理する質の高いシステムをインターネット通販事業者の皆さまに対して提供してきた実績を活かし、物流倉庫・受注管理・出荷の包括的な物流支援サービスである本事業の更なる強化を図っております。PCや家電以外に自転車等のアイテムやスポット対応等柔軟な対応によりビジネスは堅調に推移しております。

また、継続的に新聞やインターネット（主に検索連動型）での同事業の広告展開及び取材対応に伴うメディアへの露出に努めております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は105百万円（前年同四半期比6.0%減）、営業利益10百万円（前年同四半期比50.6%増）となりました。

2023年4月、今後の事業内容の多角化に対応するため、家電商品を含めた不動産仲介トータルソリューションサービス展開について発表しました。新築物件のみならず既存物件の中から、主に高品質な物件を求めている海外・国内のお客さまに対して、当社は、これまでインターネット通販サイト及び家電レンタルサイト運営で培った販売から物流までワンストップで管理する質の高いシステムやノウハウを活用し、入居者のニーズに沿って入居当日から家電のある暮らしを快適にスタートすることができるように入居前にあらかじめ家電商品の購入や家電レンタル品の設置を行っていく方針です。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高6,793百万円（前年同四半期比17.3%減）、営業利益2百万円（前年同四半期比98.3%減）、経常利益1百万円（前年同四半期比99.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は9百万円（前年同四半期は119百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ362百万円増加し、6,722百万円となりました。これは主に、現金及び預金94百万円増加、売掛金103百万円減少、商品298百万円増加、建設仮勘定50百万円増加によるものであります。

## (負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ456百万円増加し、3,818百万円となりました。これは主に、買掛金698百万円増加、未払金236百万円減少によるものであります。

## (純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ93百万円減少し、2,904百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失9百万円の計上、配当金の支払81百万円によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ94百万円増加し、1,228百万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、256百万円（前年同四半期は406百万円増加）となりました。収入の主な内訳は、売上債権の減少額103百万円、仕入債務の増加額698百万円であり、支出の主な内訳は、棚卸資産の増加額296百万円、未払金の減少額等による「その他」の減少額262百万円によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、72百万円（前年同四半期は46百万円使用）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出52百万円、無形固定資産の取得による支出30百万円によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、89百万円（前年同四半期は653百万円使用）となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出13百万円、配当金の支払額75百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年1月期の業績予想に関しましては、2023年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,133,762	1,228,300
売掛金	1,486,418	1,382,900
商品	2,703,016	3,001,791
その他	135,975	168,029
流動資産合計	5,459,173	5,781,022
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	122,757	119,149
工具、器具及び備品(純額)	21,113	20,327
土地	2,003	2,003
建設仮勘定	467	51,174
有形固定資産合計	146,341	192,654
無形固定資産		
ソフトウェア	334,478	331,199
その他	12,083	12,024
無形固定資産合計	346,562	343,223
投資その他の資産		
投資有価証券	588	581
出資金	16,270	16,270
差入保証金	360,766	349,625
その他	46,713	55,350
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	408,462	405,950
固定資産合計	901,366	941,828
資産合計	6,360,539	6,722,850



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,717,350	2,416,287
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	71,928	76,088
未払金	754,288	517,947
未払法人税等	39,735	16,775
賞与引当金	4,666	11,666
その他	126,071	151,906
流動負債合計	3,114,040	3,590,671
固定負債		
長期借入金	181,686	163,704
その他	66,367	63,933
固定負債合計	248,053	227,637
負債合計	3,362,093	3,818,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	888,563	888,563
利益剰余金	1,306,018	1,214,583
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	2,966,402	2,874,967
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48	41
その他の包括利益累計額合計	48	41
非支配株主持分	31,993	29,531
純資産合計	2,998,445	2,904,540
負債純資産合計	6,360,539	6,722,850

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年2月1日 至2022年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年2月1日 至2023年4月30日)
売上高	8,211,975	6,793,601
売上原価	6,716,556	5,624,527
売上総利益	1,495,419	1,169,074
販売費及び一般管理費	1,335,569	1,166,435
営業利益	159,849	2,638
営業外収益		
受取利息	9	8
受取手数料	257	198
為替差益	3,953	310
助成金収入	2,500	-
還付加算金	139	-
その他	492	177
営業外収益合計	7,353	695
営業外費用		
支払利息	5,786	1,296
支払手数料	688	812
営業外費用合計	6,474	2,108
経常利益	160,728	1,224
特別損失		
固定資産除売却損	2	2,714
特別損失合計	2	2,714
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	160,725	△1,489
法人税等	44,270	10,542
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,455	△12,031
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,428	△2,462
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	119,883	△9,569

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,455	△12,031
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	△7
その他の包括利益合計	26	△7
四半期包括利益	116,481	△12,038
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,909	△9,576
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,428	△2,462

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	160,725	△1,489
減価償却費	39,680	37,068
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,000	7,000
受取利息及び受取配当金	△9	△8
支払利息	5,786	1,296
為替差損益(△は益)	△264	△268
固定資産除売却損益(△は益)	2	2,714
売上債権の増減額(△は増加)	72,019	103,517
棚卸資産の増減額(△は増加)	120,830	△296,750
仕入債務の増減額(△は減少)	55,223	698,936
その他	30,466	△262,679
小計	491,461	289,337
利息及び配当金の受取額	9	8
利息の支払額	△5,753	△1,276
訴訟関連損失の支払額	△36,498	-
法人税等の支払額	△42,445	△31,543
営業活動によるキャッシュ・フロー	406,773	256,525
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,971	△52,267
無形固定資産の取得による支出	△32,853	△30,239
差入保証金の差入による支出	△2,723	-
差入保証金の回収による収入	-	11,042
その他	-	△879
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,548	△72,343
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△565,000	-
長期借入金の返済による支出	△13,822	△13,822
配当金の支払額	△74,071	△75,015
その他	△1,053	△1,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	△653,946	△89,905
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	260
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△293,721	94,537
現金及び現金同等物の期首残高	1,792,502	1,133,762
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,498,780	1,228,300

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年2月1日 至 2022年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,939,076	176,040	96,858	8,211,975	—	8,211,975
セグメント間の内部売上高 又は振替高	558	2,679	15,902	19,141	△19,141	—
計	7,939,635	178,719	112,761	8,231,116	△19,141	8,211,975
セグメント利益又は損失(△)	289,711	△43,679	7,072	253,104	△93,255	159,849

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△93,255千円は、セグメント間取引消去900千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△94,156千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及び3PL事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年2月1日 至 2023年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,529,716	173,615	90,270	6,793,601	—	6,793,601
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,555	5,072	15,700	22,329	△22,329	—
計	6,531,271	178,688	105,971	6,815,930	△22,329	6,793,601
セグメント利益又は損失(△)	122,232	△28,773	10,648	104,108	△101,470	2,638

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△101,470千円は、セグメント間取引消去△529千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△100,940千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及び3PL事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。